縄文ポトラッチ

松本 春崇 HARUTAKA MATSUMOTO

縄文ミラーグリッド絵画 顔面土器 No.9 大石 Jomon Mirror Grid: Human-Face Doki No.9 Ooishi 油彩、キャンバス | 91×73cm | 2026年

KATSUGATAKE MUSEUM OF ART

つないで結ぶ八ヶ岳美術館

八ヶ岳美術館 | 原村歴史民俗資料館

開館時間　9:00～17:00（最終入館16:30、会期中無休）
入館料　一般・高校生以上　510円（460円）
小中学生　250円（200円）
（ ）内は20名以上の団体料金 諏訪6市町村の小中学生無料

主催　八ヶ岳美術館、原村、原村教育委員会
協賛　スワテック建設株式会社、諏訪信用金庫、株式会社イツミ、たてしな自由農園

2026 9.19 SAT — 12.6 SUN JOMONPOTLATCH

01

02

03

04

01　縄文ミラーグリッド絵画：土偶 No.1 ビーナス
Jomon Mirror Grid: Dogu No.1 Venus
油彩、キャンバス ｜ 194×130cm ｜ 2026年

02　縄文ミラーグリッド絵画：顔面土器 No.10 フゥーちゃん
Jomon Mirror Grid : Human-Face Doki No.10 Feu-chan
油彩、キャンバス ｜ 91×73cm ｜ 2026年

03　縄文ミラーグリッド絵画：顔面土器 No.4 泣く女
Jomon Mirror Grid : Human-Face Doki No.4 The Weeping Woman
油彩、キャンバス ｜ 91×73cm ｜ 2026年

04　プロジェクト：家縛りプロジェクト No.51
旅する家縛りプロジェクト 縄の聖地·信州へ
「中ッ原縄文公園」長野県茅野市
2019年8月

八ヶ岳美術館｜原村歴史民俗資料館

常設展　美術作品　清水多嘉示（彫刻・絵画）、津金雀仙（書）
考古学資料　国指定阿久遺跡をはじめ、村内の遺跡から出土した縄文土器・石器

開館時間　9:00～17:00
（最終入館は16:30まで　会期中無休）
入館料　一般/高校生以上510円（460円）
小中学生250円（200円）
※（ ）内は20名以上の団体料金
諏訪6市町村の小中学生無料

Adress　〒391-0115
長野県諏訪郡原村17217-1611
Tel / Fax　0266-74-2701
Mail　info@yatsubi.com
Website　https://yatsubi.com/

八ヶ岳美術館は自然と調和する美術館として、建築家・村野藤吾（文化勲章受章者）により設計されました。連続したドーム型の建物の天井はレースカーテンの絞り吊りになっています。落ち着いた柔らかな明かりの中で作品をゆったりとご覧いただけます。

〈交通案内〉
■電車・バス
バスの運行は季節や曜日によって変動します。詳しくはお問合せください。
■中央自動車道
諏訪南インターから 7 km
小淵沢インターから 14 km

チラシデザイン：朴なおみ（HO DESIGN）

縄文ポトラッチ Jomon Potlatch

つないで結ぶ
八ヶ岳美術館

9.19 SAT
2026
12.6 SUN

松本春崇

MESSAGE

このたび、八ヶ岳美術館では「松本春崇　縄文ポトラッチ―つないで結ぶ八ヶ岳美術館」を開催いたします。松本春崇は、「四つ」をテーマに、縄で描く縄文絵画をはじめ多様な表現を展開しています。また、家などの建築物をその場所に関わる人々とともに縄で十字に縛る「家縛りプロジェクト」を実施し、縄で縛ることで記録や記憶を痕跡として残す新しい縄文芸術としています。八ヶ岳美術館が位置する八ヶ岳の西南麓では、縄文時代の文化が発展し、多くの集落跡や土器などの考古資料が出土しています。本展では、土器や土偶をモチーフとした絵画を中心に、原村の子どもたちとともに八ヶ岳美術館を縄で縛った作品「つないで結ぶ八ヶ岳美術館」のほか、彫刻や映像作品を展示します。縄文文化の豊かさと贈与をめぐる思想を手がかりに、縄文を従来の時代区分から解き放ち、現代から未来へと続く「超縄文時代」として捉え直すことを試みます。

EVENT

家縛りプロジェクト

美術館結び：つないで結ぶ八ヶ岳美術館

9月18日（金）9:00～12:00頃｜参加費不要
＊雨天の場合は9月19日（土）に延期。詳しくはお問い合わせください
制作協力　原小学校６年生の児童の皆さん

原小学校の６年生の皆さんと一緒に制作した「四線譜縄」で、建物全体をプレゼントのように十字につないで結ぶアートイベント「家縛りプロジェクト」をおこないます。八ヶ岳美術館をイメージして選んだ色（コードカラー）で染めた四本の縄を楽譜に見立て、その楽譜に児童一人一人の思い出がつまった古着で音符を作り、思い出のメロディを自由楽譜として創作しました。みんなの思い出が表現されたこの縄で八ヶ岳美術館をつないで結び、児童とのコラボレーション作品として展覧会期間中、展示します。

シンポジウム

縄文開放：縄文の聖地より　要予約

10月31日（土）13:30 ～ 16:00
参加費不要（入館料のみ）

なぜ諏訪・八ヶ岳地域では、これほど豊かな縄文文化が花開いたのか。考古学・哲学・文学・芸術の視点から、この土地に受け継がれる文化の力を探り、縄文を過去の遺産ではなく、現代へと開かれた創造の源泉として捉え直します。

司会　湯沢 英彦（明治学院大学文学部名誉教授）
登壇者　酒井 健（法政大学文学部名誉教授）
澤田 直（立教大学文学部名誉教授）
守矢 昌文（茅野市尖石縄文考古館特別館長・日本考古学協会員）
松本 春崇（アーティスト）

PROFILE

松本春崇｜Harutaka MATSUMOTO（アーティスト）

千葉県市川市在住。多摩美術大学大学院修了後、フランス政府給費を受け1987-89年パリのエコール・デ・ボザール留学。クリスチャン・ボルタンスキーに師事する。2003-04年文化庁芸術家在外研修員によりニューヨーク滞在。1986年より「四つ」をモチーフに絵画や彫刻、写真などの4ism作品の制作を始める。四つのものを描いたり、縄により画面を四分割したりし、2010年頃から元絵をグリッドで切り取り反転したイメージを合わせた縄文グリッド絵画へと展開する。平行して2010年から編集者の角田良江（hmp Art）と「家縛りプロジェクト」をスタートし「旅する家縛りプロジェクト 縄の聖地·信州へ」（2019-2020年）など53件実施。国内外での個展、グループ展、アートプロジェクトなど多数。

主な展覧会／「岡谷シルクトレインプロジェクト」（岡谷蚕糸博物館, 長野, 2023年）、「ひも縄の精霊とつなぐもの」（諏訪市美術館, 長野, 2019・2020年）、「縄文式アッサンブラージュ」（日仏会館ギャラリー, 東京, 2018年）、「Cinemas・Weekend Christian」（MAC/VAL, フランス, 2010年）、「La Chaine・日仏現代美術展」（BankART1929Yokohama, 神奈川, 2007年）、「Japanese Contemporary Art Festival」（ヘイリ芸術村, 韓国, 2007年）など。